

トルコ金融政策（2024年5月）

既往の利上げの効果を見極める時間帯が続く

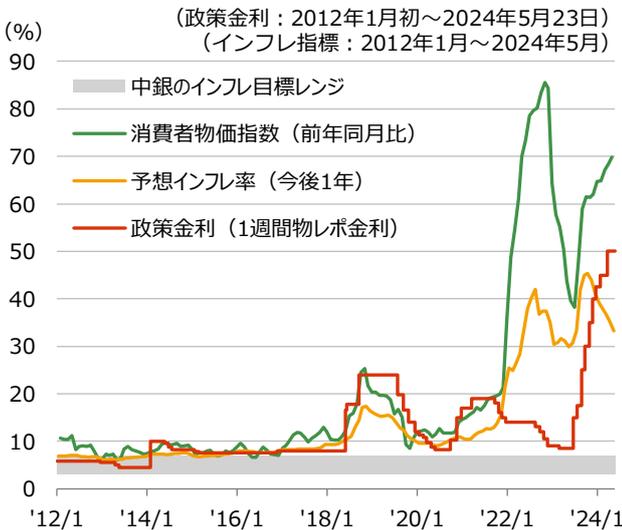
2024年5月24日

金利を含めたトルコ・リラのパフォーマンスは一段と向上

トルコ中央銀行は5月23日（現地、以下同様）に金融政策決定会合を開催し、政策金利（1週間物レポ金利）を50%に据え置くことを決定しました。据え置きは2会合連続です。声明文では、引き締めの金融政策による内需の減速やトルコ・リラの実質的な上昇、インフレ期待の低下を通じて、今年後半にはインフレ率（消費者物価指数・前年同月比）が明確に鈍化すると基本シナリオを維持しています。そうした中、「最近の経済指標は1-3月期に比べて内需が減速していることを示す」と評価しており、上記のシナリオが実現する可能性がやや高まった印象です。状況次第では利上げ再開も辞さない構えを示していますが、基本的には政策金利を据え置いて既往の利上げの効果を見極める時間帯が続くと考えられます。

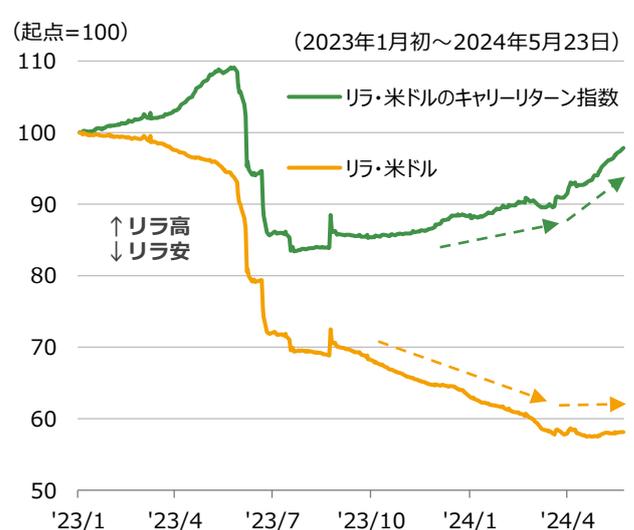
足元で海外投資家によるトルコ国債への投資が増えています。3月末の地方選挙を通過したことで、大きな選挙が2028年の大統領選挙まで予定されておらず、政府が景気よりもインフレ抑制に注力しやすい環境にあることが買い安心感につながっている一因のようです。5月3日には格付会社のS&Pがトルコのソブリン格付を引き上げたほか、5月13日には政府が財政緊縮策を発表するなど、投資家に評価されやすい材料が散見されます。トルコ・リラは、昨年秋から今年3月ごろまで米ドルに対してほぼ一定のペースで減価してきましたが、地方選挙後はおおむね横ばいで推移しています。そのため、トルコ・リラ買い米ドル売りの投資成果を示すリラ・米ドルのキャリーリターン指数は上昇ペースが加速する展開となっています。

トルコの政策金利とインフレ指標



※消費者物価指数は2024年4月まで
(出所) ブルームバーグ、トルコ中央銀行

トルコ・リラの対米ドルレート



※リラ・米ドルのキャリーリターン指数は、リラ・米ドルにトルコと米国の金利差を加味した値 (出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。